

代数曲面の3次被覆

高知大、理 徳永浩雄

§0. Introduction.

与えられた variety の上に double cover を構成して、新しい variety を作るという方法は、一般型代数曲面などを構成したりする場合には、非常に popular な方法である。このような場合に double cover が有用な理由には、

① covering が全て Galois

② 構成法が容易で、色々な不変量などの計算が楽に出来る。ということか考える。と=3が、triple cover を用いようとする時、話は一気にややこしくなる。その大きな理由は、covering が一般に non-Galois であるということである。さて、triple covering を考える上で、方法は2通りある。それは、

① rank 2 vector bundle を用いる

② 3次方程式を解くという観点から考える

である。①は、double cover と line bundle の関係の $P+Q$ を triple covering と rank 2 vector bundle の間に見出して

それらを用いて Triple coverの研究を行うもので、この方面では、R. Miranda, 藤田氏の結果がある。([1], [2]) ここで、②の方向に沿って triple covering を考えてゆきたいと思う。

§1 Triple coverings と 3次方程式

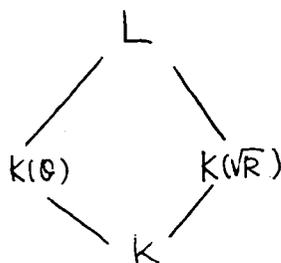
以下 variety は全て \mathbb{C} 上とする。

体 K 上の 3次方程式

$$x^3 + ax + b = 0, \quad a, b \in K, \quad \text{----- (1.1)}$$

K は 1 の n 乗根を数

に関する K 上の最小分解体 L の K 上の Galois 群が G_3 の時、 L と K 上の二次根号体 $K(\sqrt{R})$ が存在して、



$$\theta : (1.1) \text{ の 1 つの解} \quad R = \frac{a^3}{27} + \frac{b^2}{4}$$

をみる。

さて、 X, Y は normal algebraic variety, $p: X \rightarrow Y$ は Y 上の finite triple covering とする。 X, Y の有理函数体をそれぞれ $\mathbb{C}(X), \mathbb{C}(Y)$ とすると、これらの間には、

$$\mathbb{C}(X) = \mathbb{C}(Y)(\theta)$$

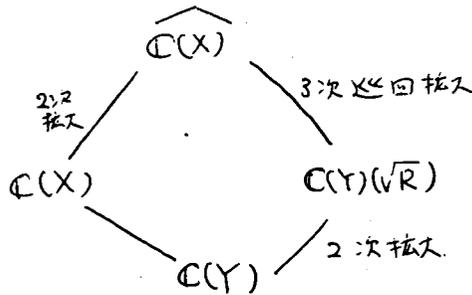
ただし, θ はある 3 次方程式

$$\zeta^3 + 3a\zeta + 2b = 0 \quad \text{----- (1.2)}$$

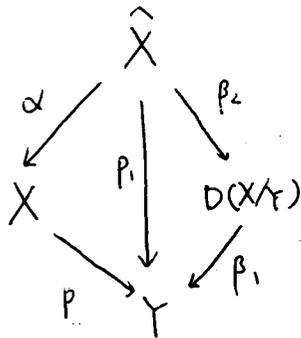
$$a, b \in \mathbb{C}(Y)$$

の根とする.

ρ が cyclic でないとき, (1.2) の $\mathbb{C}(Y)$ 上の最小分解体の Galois 群は \mathbb{S}_3 であるから, 上述のように $\mathbb{C}(X), \mathbb{C}(Y)$ に対応して, unique に,



をみたす体が存在する. ここで, Y の $\widehat{\mathbb{C}(X)}$ -normalization を \widehat{X} , $\mathbb{C}(Y)(\sqrt{R})$ -normalization を $D(X/Y)$ と表わすこととすると, $X, Y, \widehat{X}, D(X/Y)$ の間には次のような関係が存在する.



$p_1: \widehat{X} \longrightarrow Y$ finite Galois covering, Galois 群 $\cong \mathbb{S}_3$

$\beta_1: D(X/Y) \longrightarrow Y$ finite double covering

$\beta_2: \widehat{X} \longrightarrow D(X/Y)$ finite cyclic triple covering

$\alpha: \hat{X} \longrightarrow X$ finite double covering.

従って, p の構造を調べるには, β_1, β_2, α と \hat{X} 上の \mathbb{S}_3 の作用をみればよいことがわかる.

以下, $Y: \text{smooth}$ と仮定する.

branch locus の purity により, p と p_1 の branch locus は共に, Y 上の divisor になるがこれらについて, 次の命題が成立する.

Proposition 1.3. $\Delta(X/Y): p$ の branch locus, $\Delta(\hat{X}/Y): p_1$ の branch locus とすると,

$$\Delta(X/Y) = \Delta(\hat{X}/Y)$$

(= は set theoretic に という意味)

証). $\Delta(X/Y) \subset \Delta(\hat{X}/Y)$ は明らか. $\Delta(X/Y) \not\subset \Delta(\hat{X}/Y)$ とする. $x \in \Delta(\hat{X}/Y) \setminus \Delta(X/Y)$ とすると, p は x の近傍では étale. 従って, $p^{-1}(x) = \{x_1, x_2, x_3\}$ である. 一方, $x \in \Delta(\hat{X}/Y)$ と, p_1 が finite Galois covering であることを考えると $\alpha^{-1}(x_i) = y_i$ (一点) である. $p_1: \hat{X} \rightarrow Y$ の Galois 群は \mathbb{S}_3 かつ, 3点 $\{y_1, y_2, y_3\}$ に \mathbb{S}_3 が作用するが, 上記の事実は, 各点 y_i を fix する; 位数 2 の元が存在することを示す. これより \mathbb{S}_3 に order 2 の normal subgroup が存在することになるか, これは矛盾である.

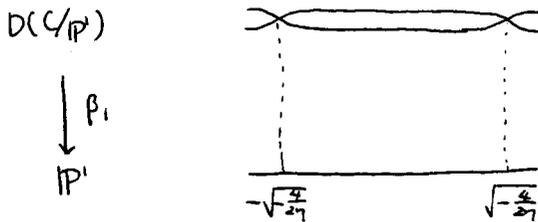
Q. E. D.

ここで簡単な例を挙げる

Example 1.4. $p: C \rightarrow \mathbb{P}^1$ \mathbb{P}^1 上の triple covering, C は \mathbb{P}^1 の $\mathbb{C}(\mathbb{P}^1)(\theta)$ -normalization とする. (但し, θ は 3 次方程式, $X^3+X+t=0$ の解. (t は \mathbb{P}^1 の inhomogeneous coordinate) この場合,

$$R = \frac{1}{27} + \frac{t^2}{4}$$

であり, $\mathbb{C}(D(C/\mathbb{P}^1)) = \mathbb{C}(\mathbb{P}^1)(\sqrt{R})$ であるから, $\beta_1: D(C/\mathbb{P}^1) \rightarrow \mathbb{P}^1$ は以下のようになる:



従って, $D(C/\mathbb{P}^1) \cong \mathbb{P}^1$ であり, $D(C/\mathbb{P}^1)$ の適当な inhomogeneous coordinate を Z とすれば, β_1 は,

$$\beta_1: D(C/\mathbb{P}^1) \longrightarrow \mathbb{P}^1$$

$$\begin{array}{ccc} \downarrow & & \downarrow \\ Z & \longmapsto & -\frac{2\sqrt{t}}{3\sqrt{3}} \frac{Z^2+1}{Z^2-1} (=t) \end{array}$$

と表わせる. さらに, 上記の座標を用いて, $\sqrt{\beta_1^* R}$ を表わせば,

$$\begin{cases} \sqrt{\beta_1^* R} = \frac{2\sqrt{t}}{3\sqrt{3}} \frac{Z}{Z^2-1} \\ \beta_1^* t = -\frac{2\sqrt{t}}{3\sqrt{3}} \frac{Z^2+1}{Z^2-1} \end{cases}$$

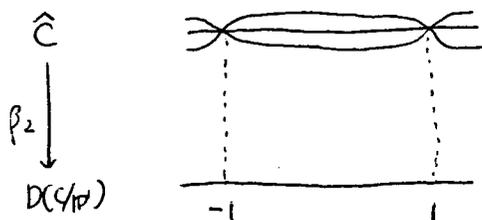
となる. 従って

$$-\frac{1}{2}\beta_1^*t + \sqrt{\beta_1^*R} = \frac{\sqrt{3}}{3\sqrt{3}} \frac{z+1}{z-1}$$

を得る。ゆえに、

$$\begin{aligned} \mathcal{C}(\hat{\mathcal{C}}) &= \mathcal{C}(D(\mathcal{C}/\mathbb{P}^1)) \left(\sqrt[3]{-\frac{1}{2}\beta_1^*t + \sqrt{\beta_1^*R}} \right) \\ &= \mathcal{C}(D(\mathcal{C}/\mathbb{P}^1)) \left(\sqrt[3]{\frac{\sqrt{3}}{3\sqrt{3}} \frac{z+1}{z-1}} \right) \end{aligned}$$

これから、 $\beta_2: \hat{\mathcal{C}} \rightarrow \mathbb{P}^1$ は以下のようなになる。



ゆえに、 $\hat{\mathcal{C}} \simeq \mathbb{P}^1$ であって、 $\hat{\mathcal{C}}$ の適当な inhomogeneous coordinate w とすれば、

$$\begin{array}{ccc} \beta_2: & \hat{\mathcal{C}} & \longrightarrow & D(\mathcal{C}/\mathbb{P}^1) \\ & \downarrow & & \\ & w & \longmapsto & -\frac{w^3+1}{w^2-1} (=z) \end{array}$$

と表わせる。

次に、 $\text{Gal}(\mathbb{C}(\hat{\mathcal{C}})/\mathbb{C}(\mathbb{P}^1))$ の action を w を用いて表す $\text{Gal}(\mathbb{C}(\hat{\mathcal{C}})/\mathbb{C}(\mathbb{P}^1)) \simeq \mathcal{G}_3$ であるから、 \mathcal{G}_3 の order 2 の元と 3 元について記述する。

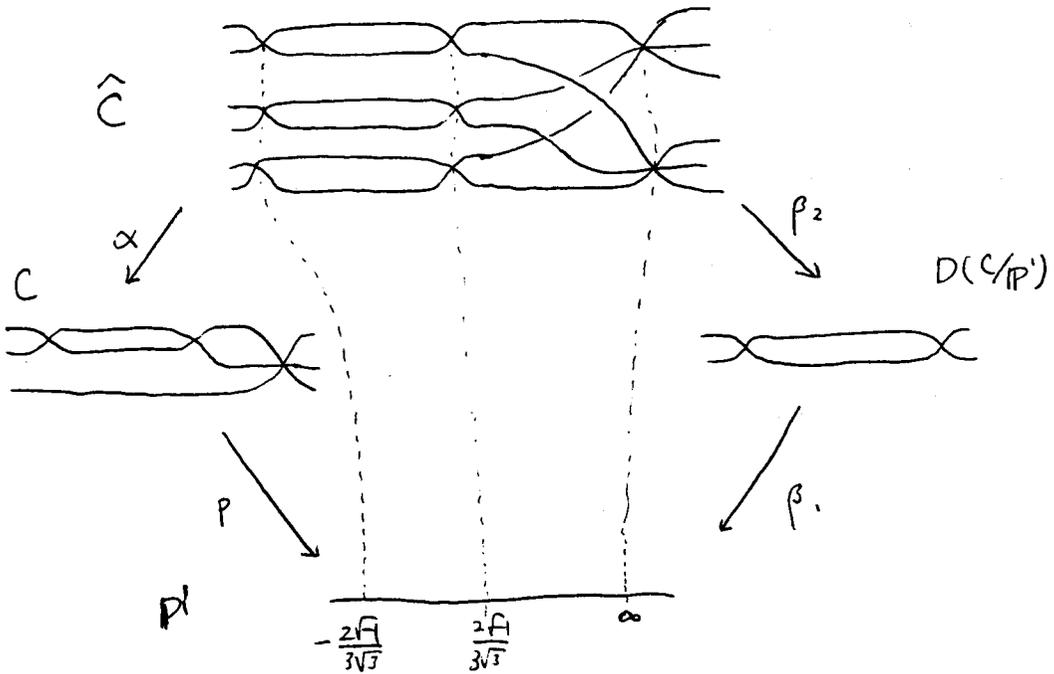
(i) order 2 の元:

$$\sigma: w \longmapsto \frac{1}{w}$$

(ii) order 3 の元

$$\tau: w \longmapsto \varepsilon w \quad \varepsilon = \exp\left(\frac{2\pi\sqrt{-3}}{3}\right)$$

となる。以上のことを図で表わすと次のようになる。



§2. totally ramified triple covering.

$p: X \rightarrow Y$ は smooth variety Y 上の finite triple covering とある。

Definition 2.1. p が totally ramified とは, $\forall x \in \Delta(X/Y)$ に対し, $p^{-1}(x) = \{\text{one point}\}$ となっている Triple covering のことである。

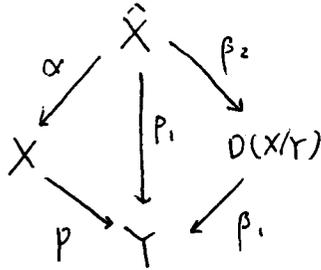
Proposition 2.2. $p: X \rightarrow Y$ は smooth variety Y 上の totally ramified triple covering とする。次の (i), (ii) が成立している と仮定する。

(i) X は smooth

(ii) Y は simply connected.

このとき, p は cyclic triple covering であり, p の branch locus $\Delta(X/Y)$ は smooth となる.

証) p : not cyclic とき. このとき, §1 で定義した \hat{X} , $D(X/Y)$ が存在して,



は可換となる. $\text{Gal}(\mathbb{C}(\hat{X})/\mathbb{C}(Y)) \cong \mathbb{Z}_3$ であるとき,

Proposition 1.3. より, α は étale となる. これから, β_1 が étale になることが示せるが, これは仮定に反する. 又

$\Delta(X/Y)$ が smooth であることは, cyclic cover の一般論より従う

Q.E.D.

Corollary 2.3. $p : C \rightarrow P^1$ は triple covering. p の branch point を g_1, \dots, g_r と表す. $p^{-1}(g_i) = \text{one point}$ ($i=1, \dots, r$) が成立していれば, p は cyclic である.

§3 代数曲面の Triple covering の構成.

この § では, 代数曲面の triple covering の具体的な構成法について述べる.

Σ は non-singular な algebraic surface とする. Σ 上の smooth divisor $A_0, A_\infty, B_0, B_\infty$ で以下の条件を満たすものを考える.

(i) $A_0 \sim A_\infty, B_0 \sim B_\infty$ (linear equivalent)

(ii) divisor $A_0 + A_\infty + B_0 + B_\infty$ は normal crossing divisor.

(iii) $a_0, a_\infty, b_0, b_\infty$ はそれぞれ $A_0, A_\infty, B_0, B_\infty$ の defining equation とする. このとき

$$a_0^3 b_\infty^2 + a_\infty^3 b_0^2 = 0$$

で定義される divisor は reduced. かつ,

$$a_\infty(a_0^3 b_\infty^2 + a_\infty^3 b_0^2) = 0$$

で定義される divisor は, 高々 $A_0 \cap A_\infty, B_0 \cap B_\infty, A_0 \cap B_0, A_0 \cap B_\infty$ だけで特異点をもたない.

上記 (i) ~ (iii) を満たす divisor $A_0, A_\infty, B_0, B_\infty$ に対し,

$\mathbb{C}(\Sigma)$ 上の 3 次方程式

$$\xi^3 + 3a\xi + 2b = 0, \quad \text{--- (3.1)}$$

$$a, b \in \mathbb{C}(\Sigma), \quad (a) = A_0 - A_\infty, \quad (b) = B_0 - B_\infty$$

を考えよう. (3.1) が $\mathbb{C}(\Sigma)$ 上既約のとき, (3.1) の解の 1 つを θ

とし, Σ の $\mathbb{C}(\Sigma)(t)$ -normalization を S' とすれば, S' は Σ 上の triple covering である. この S' の singularities は以下の通り.

Theorem 3.1. S' の singularities は以下の通り.

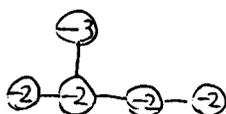
(1) $A_0 \cap A_\infty$ 及び $B_0 \cap B_\infty$ 上の点.

rational triple point で, その minimal resolution の dual graph は,



(2) $A_\infty \cap B_0$ 上の点.

rational triple point で, その minimal resolution の dual graph は



証明はパラメータ - 1 付の 3 次方程式を Cardano の公式に沿って解いてみることにより得られる.

上記の定理を用いて, non-Galois triple covering の smooth model の C_1 , C_2 等がある程度計算可能となる. その例として, 次の Proposition が成立する.

Proposition 3.2. Σ_n は degree n の Hirzebruch 曲面とし
 S_0 は Σ_n の positive section とする. b は $\mathbb{C}(\Sigma_n)$ の元で,
 $(b) = B_0 - B_\infty$ とし $\tau \leq 3$, $B_0, B_\infty \in |2S_0|$ かつ, 先の条件 (i)
 (ii) (iii) をみたすとする. θ は 3 次方程式

$$\xi^3 + 3\xi + 2b = 0$$

の解の一つとし, S' は Σ_n の $\mathbb{C}(\Sigma_n)(\theta)$ -normalization
 とする. この時 S' の smooth model S の numerical invariants
 は,

$$C_1^2(S) = 4n - 8$$

$$C_2(S) = 20n - 4$$

$$p_g(S) = 2n - 2$$

となる. $\tau \geq 3$ に S は minimal となる.

証明は 3 つの部分に分かれる.

① C_1^2, C_2 の計算.

② $q(S) = 0$ の証明

③ S は minimal surface

である. 詳しくは 徳永 [4] を参照せよたい.

[追記] Theorem 3.1. の (ii) の場合が rational triple point
 であることは, 講演の後 泊 昌孝氏の指摘によるものである.
 この場をかりて感謝の意を表します.

References:

- [1] T. Fujita: Triple covers by smooth manifolds, J. Fac. Sci. of The Univ. of Tokyo, Vol. 35, 169-175. (1988)
- [2] R. Miranda: Triple covers in algebraic geometry, Amer. J. Math. 107 (1985), 1123-1158
- [3] H. Tokunaga: Triple coverings of algebraic surfaces according to the Cardano formula, to appear in J. Math. of Kyoto Univ.
- [4] H. Tokunaga: On the construction of triple coverings of certain type of algebraic surfaces and its applications, preprint.